

バイオマス技術 研究発表・交流会

つくば市内

茨城県内のベンチャーや研究機関などでつくる「つくばバイオマスもみから研究会」（藤田哲史会長）の研究発表・交流会が二十一日、つくば市で開かれた。研究会には県内外の企業や自治体関係者ら約五十人が参加。新たな農業ビジネスモデルについての講演などが

あった。

研究会では、もみ殻を使った堆肥（たいひ）の効用のほか、循環型社会を目指す企業・大学のバイオマス技術を紹介。植物油からつくるバイオ燃料、魚を原料とした有機液肥など県内外の企業が独自開発した技術を説明し、意見を交わした。

茨城県阿見町で有機農業の実証実験を進めている茨城大学の原弘道准教授は「環境への負荷を減らした農業の実践に、農業の未来がある」と語った。

同研究会の研究発表・交流会は五回目。今後、さらに多くの企業・自治体に参加を呼び掛ける。